

経営工学部会 平成22年8月度研修会の議事録

経営工学部会
部会長 毛利悦造
幹事 末浪、河内

日 時：平成22年 8月28日（土） 13時00分より16時45分まで

場 所：(社)日本技術士会 近畿支部会議室

出席者(敬称略)：毛利悦造、新庄秀光、坂井剛太郎、間島勝彦、栗山仙之助、杉村光二、八代弘、岡田礼二郎、杉山典之、池田洋二、大坂吉文、吉川順偉、徳永浩二、高倉欣三、伊勢博幸、河内弘茂、末浪憲一、 以上17名。

なお、門井弘至技術士（上下水道：富士設計コンサルティング(株)）から体験参加の申し込みが事前にあったが、当日欠席された

1、毛利部会長挨拶：

本日も暑い中をお集まり戴き有難うございます。お陰さまで最近新しい参加者が増え有難く思っています。前は眼の手術で欠席して申し訳なかった。総会で役員改選が今日へ持ち越しとなったが、若い方々にお願いしたいところですが、手を上げて戴く方もいらっしゃらないので、一応今回は全役員留任とさせて戴ければと思っています。今日は坂井技術士の興味のあるお話を拝聴して研修を重ねましょう。

2、研修会

講 師：坂井剛太郎 技術士（経営工学、総合技術監理）
(株)朝日興産 代表取締役社長

テーマ：「異文化対応経験を通じたオペレーション概念の構築」
(「研修会資料」A4 26 ページ、パワーポイント 104 枚)

概 要：竹中工務店にて、タイ、アメリカ、香港での合計11年半にわたる海外赴任経験と、中国現地法人支援業務を通して得た異文化対応経験は、その度毎に自らの「思い込み」と「常識」を覆されるものであった。現在は傍系小会社で、石油・緑化・販売・工事の四事業を運営しているが、ここでのオペレーション方針は先述の経験が大きく影響していることから、その関係性と概念構築のプロセスについて報告する。

(1) 経歴：

1982年(株)竹中工務店入社、国内勤務→タイ現地法人プロジェクトマネージャ→アメリカ現地法人支店長補佐→帰任・大阪本店技術部→香港建設プロジェクト→アメリカ現地法人CEO→帰任・大阪本店長席→(株)朝日興産代表取締役社長に出向現在に至る

(2) オペレーションのツボ：

- 1、タイ王国：
 - ①タイ赴任でのカルチャーショック＝似て異なるもの、
 - ②タイにおける原価特性＝国内生産品や自然由来材料費は安価、
人件費 1/10 能力 1/3→実質人件費 1/3、
- 2、アメリカ合衆国：
 - ①アメリカ赴任でのカルチャーナレッジ＝異なると分かっているもの、
農耕民族⇔狩猟民族、
 - ②アメリカの市場特性＝大きさ（日米国土面積比 1：25）、
 - ③購買密度（日本は点を線で結ぶ市場構成、米国は面に散らばる市場構成）、
 - ④NYの市場特性＝産業別各ユニオンの了解をとらないと各工事が進められない。
- 3、日米マネジメント比較：

日本型マネージャーの視点（i 適材適所、ii 教育・訓練、iii ギャップ部分の完結）⇔米国型（リーダ・マネージャーが、i 自己方針の決定、ii 主要構成員の配置、iii 充填構成員の配置）
- 4、日米建設業界比較：
 - ①欧米型（芸術家・プロフェッショナルとしての設計士）⇔日本型（芸術と施工技術の伝承としての棟梁の存在）が歴史的に設計・施工方式に影響されている、
 - ②日本のスーパーゼネコンは法的・社会的責任の定常的増加→「請負（うけまけ）」回避のための再発防止策
- 5、日本の本社機構：
 - ①「現在の知識」で「将来の状況」を評価する愚かしさ、
 - ②「1 + 1」に見る「常識」の広がり、
 - ③チェスの棋譜記憶テストに見る「常識」、
 - ④プロジェクトにおけるトップの関わり、
 - ⑤価格決定ロジック、
 - ⑥新規事業孵卵の為の必要機能・環境整備
- 6、香港：
 - ①香港における技術支援業務の位置付け、
 - ②技術指導業務の提案と成果、
- 7、中華人民共和国：
 - ①総元請（総承包）建設会社のライセンス基準
 - ②日中建設会社比較
- 8、アメリカ合衆国：
 - ①業績数値→安定化←組織機能、
 - ②活動拠点推移、
 - ③現地法人運営上の長期的問題点、
 - ④個別プロジェクト対応強化、
 - ⑤基盤強化、
 - ⑥業務負荷予想

9、生産系傍系小会社：

- ①朝日興産の歴史、
- ②事業の効率化促進、
- ③人的資源育成方針

(3) オペレーション概念のまとめ

- ①事業運営の概念図、
- ②基盤強化1—自己啓発誘発、
- ③基盤強化2—職務と評価、
- ④継続的改革を可能とする組織、
- ⑤企業リスク顕在化プロセス俯瞰モデル、
- ⑥今後の展開

(4) 質疑応答

各国のカルチャーの違いと建設業界の考え方の違い、アメリカ内でもNYのユニオンの対応違いが建築途上で難儀した話、中国での建設実態、苦労話などが話題となった。

以上の各項目について、データ・グラフ・表・地図・イラスト等で事例を交えて詳細な説明があり、オリジナル的に上手くまとめられた内容には、感心させられた。

3、議題（前回総会の保留事項）

(1) 役員改選（経営工学部会規則第4条により、全役員2年任期満了に伴う改選）末浪幹事の辞退申し出であったが、冒頭の部会長挨拶通り「全員留任」で決定した。

部会長：毛利悦造、幹事：末浪憲一、花田憲三（会計）、増田武司（監査）、河内弘茂

4、活動報告（河内幹事から前回以降の活動について報告された）

- (1) 前回研修会：6/26 南方英則「循環型社会構築に向けて法制度と環境配慮」参加17名
- (2) 大阪府立高専 JABEE 講座：「企業経営」前期14コマ、22年度4月開講報告（当部会 担当者：間島 4/19、5/31、花田 4/26、5/10、杉本 5/24、有吉 6/14、6/28）
- (3) 22年度第1回近畿支部役員会：7月13日（火）18:00～20:30 日中科学技術交流報告 他、今後の活動（下記参照）等、河内・増田・杉本出席
- (4) 平成22年度技術士第二次試験筆記試験実施：8月7日～8日 大阪工業大学にて

5、連絡事項

(1) 経営工学部会行事予定

- ①次回研修会 10/16、岡田礼二郎技術士「製品評価技術基盤機構(NITE)の活動状況」
- ②次々回研修会 12/11（予備18日）、徳永浩二技術士「最近の画像処理技

術について」

③次々回研修会 23年2/19(予備26日)、講師未定

④次回見学会 23年4月 どなたかご提案戴けませんか？

(2) 近畿支部行事予定

①「中小企業支援技術士業務調査」事例募集：

中小企業交流実行委員会への協力要請

②大阪府立高専・産学官交流会への参加：

8月30日12:00～17:00 マイドーム大阪2階

③22年度第2回近畿支部役員会：

9月14日18:00～20:30 河内・増田・杉本出席予定

④第37回技術士全国大会(三重・四日市)：

9/24 専門会議～25 記念式典、参加者募集

⑤フジサンケイビジネスアイから近畿支部(環境研究部)へ連載協力：

「関西を元気に」

⑥第16回西日本技術士研究・業績発表年次大会：

11/26～27 奈良県文化会館等で開催、→

経営工学部会からの参加予定者(毛利・河内・坂井・杉村・杉山・高倉)、

論文投稿・講演予定者(坂井・河内)、

当日実行委員予定者(杉山・高倉)。

予定者以外の方も奮ってご参加・ご協力を乞う。

⑦H22年度CPD中央講座：

23年2月頃アバンテックス備後町ビルで開催予定、環境研究会担当

6、閉会挨拶(毛利部会長)

最後まで熱心なご討議有難うございました。本日はこれで閉会します。

ご苦労様でした。

以上(文責河内)